

### ■メキシコ：原子力と風力の発電電力量、全体の23%に

エネルギー大臣 Jordy Herrera は2012年3月1日、2026年に原子力と風力による発電電力量を全発電電力量の23%にするとともに、電化率100%、送電ロスの減少、埋蔵量が豊富なシェールガスの開発などを目標として掲げた。昨年の総発電電力量は2,581億 kWh で、電源別では、ガス49%、石油20%、石炭12.5%で化石燃料に大きく依存しており、水力は10%、原子力は4%（約100億 kWh）であった。2026年には、需要電力量は4,796億 kWh 程度になると見られ、ガスに過剰に頼ることなく、現在20%を占める非化石燃料による発電電力量を全体の35%程度にするとしている。しかし、水力とバイオマス、太陽光については、需要の伸びに応じる程度の開発が限界で、原子力と風力によって全発電電力量の23%を賄えるように、それらの開発を積極的に進めるという方針が示された。原子力と風力の開発については3つのシナリオが想定されている。原子力の割合が最も少ない(悲観的な)シナリオでは、稼働中のラグナベルデ発電所（BWR,80万 kW×2基）のみで全需要量の2.5%、最も多いシナリオでは1,100万 kWの原子力により全需要量の18.1%を、それぞれ賄えるとしている。